

金属技研

熱間等方圧加圧 姫路に大型HIP装置

中国などの 受注増に対応 処理能力を倍増

金属技研（東京都中野区、長谷川数彦社長、03・5365・3050）は姫路工場（兵庫県姫路市）に、直径2000mm×高さ4200mm級の製品までで処理できる業界最大級の熱間等方圧加圧（HIP）装置を導入する。素材、航空機、半導体製造装置、エネルギー分野など各種産業機

器部品の大形化と大量生産に備える。09年7月の稼働を予定しており、これにより同社のHIP処理能力は2倍になる。国内のほか、中国を中心としたアジア市場での受注増に対応する。

導入するHIP装置は米アビュアテクノロジーズ製。処理温度は最高1350度C。同社がこれまで導入したHIP装置12台分の処理を1台でこなす能力という。

HIP処理は高压容器内にセットした製品を高温高压のガス内で加工するもので、鍛造品や焼結品の内部欠陥除去のほか、異種材料の拡散接合などに利用されている。姫路工場では発電用カスタービンブレードなど

型投資となる。さらに40億円を投じてHIP処理の前・後加工や真空炉設置など設備投資を行う。

金属技研は07年2月期に売上高約85億円（前年度比14%増）を見込む。積極投資による生産能力増で、創業50周年にあたる2010年度には100億円以上の売り上げを目指す。

高温・高压の厳しい使用環境に耐える高精度部品を生産している。国内市場向けのほか、電力需要増で発電設備向け部品のニーズが増加している中国市場を狙う。

HIP関連設備の増強では、茨城工場（水戸市）にも2台のHIP装置を導入する計画。3台合わせると約40億円の大